

報新團教

定 価 1部 140円 (本体 133円＋税 200円)
 予約購読料 1年分 共 5,000円
 紙代のみ 3,500円
 振替 00140—9—145275

本紙を購読ご希望の方は、前金を
 えて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 **日本基督教団**
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918

発行人 内藤留幸
編集主筆 竹澤知代志
印刷所 株式会社きかんし

2010 年度

神奈川

教区総会報告 4

戒規関連の教団総会提案議案2件可決



神奈川

池田直人議員提案の議案
第9号：日本基督教団教師
委員会による北村慈郎教師
に対する免職適用の無効を
確認する件：でも、議案第
8号と似通った議論がなさ
☆豊かな聖礼典を目指し、
時間をかけ、互いの主張に
耳を傾け、忍耐と希望をも
って合意を目指す努力をし
ていく。☆各個教会や牧師
の判断で未受洗者に陪餐す

【教職】藤掛順一（横浜指
路）、島田勝彦（清水ヶ丘）、
北村慈郎（紅葉坂、字野
信二郎（横浜大岡）、寺田
信一（海老名）、古谷正仁
（詩田）、孫裕久（川崎戸
主）、島耕一（小田原）、須
田拓（橋本）、尾毛佳靖子

荒野

▼「ぼくは、ラルクが新しい宗教を信じているのを知っていた。…中略…トーラも

第124回神奈川教区定期総会は、6月26日(土)、清水ヶ丘教会を会場に、開会時で正議員234名中184名が出席し開催された。会議冒頭、神奈川教区形成基本方針」の前文と本文、全文が朗読された。准允及び按手志願者の所信表明時には、これに対する姿勢を問う質問があり、一様に評価する返答がなされた。岩崎隆義議長は「教師試験は不当である」とまでは言えないと認める人は挙手を」と議場に呼びかけ、賛成多数で、准允及び按手の執行が承認

された。

山北宣久教団議長による問安使挨拶では、主に戒規・免職、その背景にある聖餐理解について質疑がなされたが、この議論は、議案８・９・１０号の審議で白熱した。

教区常置委員会提案の議案第８号：「教団総会に『聖餐のあり方について慎重かつ十分に論議する場を教団内に設置する件』を議案として提出する件」の本文は、「(1)常議員会において十分な時間をとって聖餐のあり方について内容的な論議を行う。(2)その論議が十分

に煮詰まるまでは特段の法的な処置をとることを控える。単にこの議案に対する賛否ではなく、聖餐と戒規を巡り、激しい議論が交わされた。議案を支持する意見では、戒規についても聖餐についても、そこには排除の論理があり、当該教会の歩みを無視している、聖餐をクローズドにできない事情を持つ教会もあるなどが上げられた。不支持の意見では、先に既成事実を積みながら意見を主張するのは間違ひ、ルールを重んじ、同じ土俵に立たなければ議論はできないとする意見な

どが述べられた。また、教
憲・教規、更に準則について、賛否双方がその解釈と
位置付けで意見を述べ対立
した。更に、フリー聖餐の
論拠として、ドイツ福音主
義教会の一例が挙げられた
が、これに対し、同じ出典
から真反対の結論が述べら
れているという指摘がなさ
れるという場面もあった。

上記(1)(2)に加え(3)その論
議が十分に煮詰まるまでは
未受洗者への配餐を控える
、という修正案が出たが、
170名中15名の賛成で否
決され、本案が95名の挙手
で可決された。

8号と似通った議論がなされ、加えて第36回教団総会における第44号議案の解釈を巡り、教師委員会が提訴を受理したことが有効か無効かで、議論は白熱した。閉会時間が迫る中で、採決が行われ、168名中96名の挙手で可決された。

櫻井重宣議員提案の議案第10号：北村慈郎教師並びに紅葉坂教会に謝罪し、日本基督教団が今一度「公同教会」を自指して歩むことを確認する件：は、主文で、議案名に盛られていることに加え、下記の内容が提案された。☆洗礼を受けた

の判断で未受洗者に陪餐するに踏み切ることにしたのは慎重であるべき、台意を得るまでは踏みとどまるように努める。」「☆部分抜粋。審議は15分刻みで繰り返されし会期延長する中で行われた。対立する両者に配慮した内容であったが、両者共の譲れない主張に抵触しており、結果、160名中31名の挙手で否決された。

その他の議事では、議案第6号決算報告が印象的であった。望月克仁財務委員長は、プロジェクトを用いた種々の統計図表を駆使して、詳細に説明した。

田拓（橋本、尾毛佳靖子）
（戸塚、牧野邦久）横濱
二ツ橋、古旗誠 横浜上
原、三宅幸幸（元住吉）
【信徒】望月克仁（鎌倉雪
ノ下）、都筑正顕 横須賀
小川町、杉森耀子（小田
原十字町）、小川信順（茅
ヶ崎、中林克彦（鎌倉雪
ノ下）、數井紀彦 横浜指
路）、武田利邦（横浜二ツ
橋）、谷口尚弘（紅葉坂、
内田保彦（六角橋）、小島
桂子（清水ヶ丘、新庄悦
子（時田）、佐竹昇平（大
塚平安、齊藤圭美（高座
渋谷）

（新報編集部報）

あつて、ハーデースはこの地上の生活だと信じていた。…中略…それで、トールは自分をさらけだして、きずつけられたが、それが心のささえにもなっていた。ラルクの宗教は、からだをあたためてくれる、そまつな着物だらう。ひつようだと思ふときだけ、とてもぬしに、その宗教を信仰したにすぎない。それがひきちぎれると、ラルクはそれをつくらう。夏になると、ぬぎすててしまひ、秋のあらしがびゅうびゅうなりだすまで、こればちも考えなかつた。…エリック・C・ホ力

教区総会を終えて

内藤留幸

4月28日、29日の四国教区をかわきりに始まった2010年の各教区総会が、6月26日の神奈川教区総会をもって終了した。今年の各教区総会をふりかえって見えてきたいくつかのことについて記してみたい。

1条違反であり、非常に残念なことである。また、今回も教団問安使を拒否した教区が二つあり、それは京都教区と沖縄教区であった。教憲6条によれば教区は教団がその教会的機能および教務を遂行するために

ある。そのことを誠実に受け止め、信仰告白と教憲・教規を守りつつ自由に、また堂々と議論をしていってほしいと切望する。

②各教区に共通してみられた教勢の低迷と、それに伴う教会財政の悪化は深刻

は、滅んでいく者にとつては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です（一コリント1:18）。
 という確信が失われつつあることにその原因の一つがあるのではないかと思ふ。

ある。もともと教団スター卜当時、特に教憲・教規が整えられ、そして教団信仰告白が制定された頃は教団の基本的教理については一致していたといつてよい。多少解釈に幅があったとしても度外れた解釈は許され

福された情景を見て、教団の将来に生ける主は明るい光を差し込んで下さっていることを実感して希望を与えられ、大に励まされた。

伝道の困難は今に始まったことではない。ある意味

信仰の姿勢も、一概には否定できない。しかし、春に必要とされても、夏には忘れ去られる信仰は、本当に、人生の厳しい冬に耐えられる信仰だろうか。▼ラルクのよう人は実際にいる。むしろ多いかも知れない。早

①まず、第37回教団総会議員が選出され、10月末の教団総会の準備が始まった。ただし沖縄教区は今回も教団総会議員を選出しなかった。それなりの言い分があるであろうが、厳密に言えばこのことは教規第

置いたものであって、教区総会は教団と教区との対話のよい機会として活かしていくべき場である。それを一方的に破棄するのは謹んで欲しい。日本基督教団は主キリストのからだとしての秩序をもつ制度的教会で

である。それは地方の過疎化、経済不況など、現代の社会的構造による外的理由も確かに大きいが、なんとも確かに大きいのが、なんともいっても教団教会の伝道力の衰退によるのではないかと、鋭く反省を迫られる思いである。「十字架の言葉

それに加えて独特な聖餐理解から未受洗者配餐を主張するために、敢えて洗礼を受けなくても聖餐にあずかれるなら洗礼は不要だとの考えが拡がり始め、それが受洗者数の激減の要因となっている点も否定し難

なかつた。聖餐はそうした大切な教理の基本条項であり、各個教会の考えや都合によってどうにでも解釈できるといったことはない。このことは教団に属している以上厳粛に受け止めて欲しい。

ではキリスト教会史は困難な伝道の歴史そのものといひながらも決して過言ではない。皆で祈りつつ教団の伝道の将来に望みを抱きつつ協力を深めていきたいと思ふや切。

(教団総幹事)

春の未だ晩晩冷え込みの辛い時に、カーディガンのように羽織った信仰は、夏には、無用となり、そして、冬には探しても見つからなない。▼夏にも手放さなかった者だけが、人生の冬にそれを羽織ることができる。



正教師全員が登壇し拍手礼

（新報編集部報）

かった。…エリック・C・ホガ
ード『バイキングのハーク

第11回 部落解放全国会議開催

出会えない関係からの解放を求めて

第11回部落解放全国会議は、6月7日から9日にかけて浅草の東京都人権プラザで行われ、のべ215名の参加者を与えられた。

開会礼拝では小島仰太牧師（浅草教会）が説教にあたり、浅草の地での生活困窮者との出会いを痛切に語られた。その後、東谷誠部落解放センター運営委員長による基調報告、東京・西

件は被害者として、事件に遭っていた当時の苦しい胸の内と命がけの闘いを披瀝され、また、事件の裏側に潜む匿名社会、格差社会の問題点等にも触れられた。夕食は浅草駅近くの神谷バーに移動し、交流会として行われた。

2日目は、朝から多磨全生園、品川食肉市場・芝浦と場、台東、墨田、荒川の各フィールドワークに出

発。各地で解放運動の生き生きとした取り組みに触れた。夕刻には長谷川三郎さん（部落解放同盟東京都連委員長）より、東京の被差別部落の歴史と現状につい

て講演があり、なぜ「東京には部落はない」ということが定説のように流布されるようになったのか、その中で現在なお続発している東京特有の匿名性由来する差別事件、それらを克服するための人権侵害救済法制定のための国民的運動の必要性などを訴えられた。

全国から215名集う

第11回部落解放全国会議を東京・浅草で開催しました。東京教区・西東京教区、部落解放センターで共催して行いました。最初は不安でしたが、実行委員20名が協力して、参加者215名の集会ができました。

日本で今一番被差別部落の人が多く住んでいるであろうといわれる東京で実りある多くの出会いのある、部落解放が前進していく良き集会が出来たことを感謝します。

西日本とは違い、東京では、この問題がとりあげられることはほとんどありません。東京にも被差別部落があるにも関わらず、敗戦後、東京都が「東京には被差別部落はない」という差別行政をつづけてきた結果、学校教育でもそのことに触れる学校は多くはあり

力の犠牲者と向き合うものであったことが示された。その後、分科会に分かれての討議を行った。

3日目は、全体会において片岡平和さんによるドイツ、シンディ・ロマの人々との交流の旅の報告があった後、会議宣言文案を巡って協議がなされた。宣言文の確定には至らなかったが、この会議で受けたそれぞれの思いを出し合うことができた。派遣礼拝では池田季美枝牧師（富貴島教会）が、自身が関わっておられる「IDAH0」（国際反ホモフォビアの日）の生

き生きとした取り組みから、それぞれの地へと再び遣わされる者たちの背中を押すメッセージを語られた。

過密なスケジュールの中、互いの意見交換を十分になす時間を取れなかった点が反省点であるが、部落解放全国会議を東京の地、更には歴史上関東の部落の中心地であった浅草で行い、濃密な時間を多くの人々が共有することができたことは、画期的であったと思う。

（大久保正楨・実行委員会書記）

「信仰の手引き」完成を目指して

第6回・第7回宣教研究所委員会

5月18日に第36総会期第6回、6月24日に第7回宣教研究所委員会が開催された。現在宣研では任期中の新信仰問答の完成を目指してひと月に1回、鋭意委員会を重ねている。

従来「新信仰問答」と紙面上で報告してきたが、正式名称を「信仰の手引きー日本基督教団信仰告白・十戒・主の祈りを学ぶー」（宣教研究所編）とした。

◎主の祈り
教会は伝統的に三要文を重んじて信仰を養い、確かなものとしてきた。今回作成を目指している信仰の手引きもこの伝統を受け継いだものとなっている。すなわち日本基督教団信仰告白と十戒と主の祈りである。

◎主の手引き
またこの手引きは全て問答形式になっている。受洗前や受洗後の学び、さらには信徒全体の学びに資することを期待する。

◎十戒
今回この手引きを作成す

（長谷川洋介報）

キリスト教教育主事認定試験 合格者2名

第5回教育委員会

教育委員会の第5回委員会が、5月18日・19日、教団会議室で開催された。報告事項として、第49回キリスト教教育主事認定試験の結果、2名の受験者を合格とし、教団三役に報告をした件、2011年度以降の教会教育プログラムの案を小委員会が策定した件、宣教師会議への委員長

の参加等の報告がなされ、承認された。

この委員会開催中の18日夜、「宣教師との懇談会」が同会議室で開催された。5名の宣教師を迎えてそれぞれの働きと課題の報告を受け、分ち合いの時を持つことができた。

昨年、天候



この委員会開催中の18日夜、「宣教師との懇談会」が同会議室で開催された。5名の宣教師を迎えてそれぞれの働きと課題の報告を受け、分ち合いの時を持つことができた。

昨年、天候

（山畑謙報）



3日目、全体会での討議

「若い世代への伝道」を展望

第1回教育委員会と宣教師との懇談会

第1回日本基督教団教育委員会と宣教師との懇談会が5月18日教団会議室において開催された。出席者は、Cesar Santoyo(日比家族センター)、李孟哲(東京台湾教会)、Nathan Brownell(フリス女学院)、David W. Reedy(青山学院)の宣教師と、黒田若雄教育委員長、清藤淳、北皇友武、的場恵美子、平田和子、佐藤飛文、山畑謙の各委員、野村和正担当幹事、草深茂雄担当職員。



「若い世代への伝道」について宣教師の立場から

David W. Reedy(青山学院)の宣教師と、黒田若雄教育委員長、清藤淳、北皇友武、的場恵美子、平田和子、佐藤飛文、山畑謙の各委員、野村和正担当幹事、草深茂雄担当職員。

David W. Reedy(青山学院)の宣教師と、黒田若雄教育委員長、清藤淳、北皇友武、的場恵美子、平田和子、佐藤飛文、山畑謙の各委員、野村和正担当幹事、草深茂雄担当職員。

養成プログラム改訂を巡り

第2回・3回キリスト教教育主事養成に関する検討委員会

第2回委員会が3月23日、教団会議室で開催された。出席者は、木下宣世委員長、向井希夫書記、小林貞夫委員、岡本知之信仰職制委員長、黒田若雄教育委員長と野村和正担当幹事。開会祈禱を木下委員長がされた。

部落解放センターの新しい規約案が承認

第4回部落解放センター運営委員会

第36総会期第4回部落解放センター運営委員会が、全国会議後の6月9日午後から10日にかけて、教団4階会議室で開催された。出席者は出席者をあわせて29名。12年間、会計監査の労働を担ってきた田中義久監事が今期をもって退任されるので、委員会の中でその功に感謝し、共に祈りを献げた。

会計監査報告の後、前年度の決算が承認された。2009年度活動献金は、カダ合同教会から多額の献金があり、目標額がほぼ満たされたことが感謝のうちに報告された。今年度も7百万円を目標に取り組みることが確認された。また、古くなった印刷機の買い換えが承認された。

2011年に関東教区で開催を予定している部落解放キャラバンについて、関東教区と共に準備を進めていることが報告された。これまで時間をかけて検討を重ねてきた部落解放センター規約の改定作業が終わり、新しい規約案が承認された。常任運営委員会など新しい動きを盛り込んだ新規約案を常議員会に提案することになった。

事務局報

教師異動

更生 辞主(主)原田 謙
武蔵野緑 辞主(主)中村喜信
川和 就主(主)柳下明子
就主(主)中村喜信

仙台五橋 辞(主)村島義也
酒田 就(代)酒井 薫
宮城学院 辞(代)山本博之
仙台北三番丁 就(担)上野玲奈

とグリーンハウスのような活動の場を与える事例も紹介された。日本の教会とともに働くためにある自分たちに対して、期待や要望を聞きたい、という宣教師からの問いかけに対しては「尊い働きに感謝しつつも、地方にある場を設けることも大切、

触れることがほとんどない。巡回伝道などが実現できたらい。各教区の教育に関するセミナーを開催する時の講師に、宣教師を迎えたい」などの意見が出た。今後も継続することを確認し閉会した。(山畑謙報)



左から、黒田教育委員長、岡本信仰職制委員長、木下委員長、小林委員、向井書記、野村担当幹事

には、教会の教育現場での経験が必要である。教師試験のCコース型については、将来的な検討課題程度とする。詳細については、検討する。第1条③における関係学校への問い合わせ、確認については、常議員会で内容が確定した後、教育委員会が行う。受験者は、黒田委員(教育委員長)は、本委員会第1回、第2

回の協議内容を教育委員会(5月18、19日開催)で報告し、意見を求めたと報告した。今までの協議を踏まえて木下委員長が準備した「報告書」、「改定案」について協議し、「キリスト教教育主事認定試験規定」第3条の本文中の「所属教会主任教師の推薦書」に続けて「ならびに所属教会における教会教育奉仕に関する報告書」を加えるなど一部訂正し承認した。最終案を木下委員長がまとめ、次回常議員会(7月12、13日)に提案する。第37回教団総会「報告書」は、「評価と展望」を委員長が、その他を書記がまとめて提出する。閉会祈禱を向井書記がさして閉会した。(向井希夫報)

今期最後の委員会のため、予定の時間を延長して丁寧な審議を行った。第12回全国会議の振り返りや各取り組みの報告と共に、長年継続されてきた案件に多くの時間を割き、一つの区切りをつけて今期の定例の委員会を終えることが出来た。次回の運営委員会は2011年1月31日、2月1日に開催することになった。(多田玲一・部落解放センター運営委員会書記)

伝道のともしび

「蒔かぬ種は生えぬ」を合言葉に

伊東教会牧師 内田 知

「みなさんとてもいい笑顔ですね。」…ペンテコステ伝道礼拝に来た新来者が仰った嬉しい一言。湯「出づ」る国、伊豆の東に位置する「伊東」市。人口約7万5千人。首都圏からの近さも相俟って、温泉と温暖な気候に惹かれて移り住む人も少なくない。先の新来会者もその一人。

伊東教会は「日本同盟基督教協会伊東講義所」として、1907年3月に設立された。爾来103年に亘る歩みである。その間の先達の働きにより、今伊東教会は多くの信仰の遺産を受け継いでいる。

師で一家の思い出話を聞かされる。多くの人が伊東教会に親しみを覚えて下さっているのである。旧同盟のよき伝統も残されている。「伝道のスピリット」である。そもそも信条や職制というところに緩やかで少し単純なのであるが、よく言えば純粹かつ熱心である。そういう「家風」のようなものがある。「二にも二にも伝道」という志が今でも残されている。

現在も教会で特に活発なのは伝道委員会とCSである。各種集会の準備や案内、ローカル新聞への宣伝、新来会者への配慮、ハガキ書き等々、よきチームワークのもと、何より楽しんで奉仕をして下さっている。CSも、子どもたちの心にひとつでも多く聖句を、また教会のよい思い出を刻みたい」と、月1回のペースで行事を行い、子どもを招く働きを続けている。いずれも

労多くして実り少ない働きである。しかし「蒔かぬ種は生えぬ」との合い言葉のもとに、あせらずあきらめず、伝道の働きが続けられている。

伊東には大学もなく、就職先もそうはない。しかし温泉の町伊東には定年後に移住して来る方がある。その中から受洗へと導かれる方も少なくない。この教会には苗床教会というよりも、人生の最後の実りを収穫させて頂く面もある。またそういう方々はCSや

先人たちは町の一等地に会堂を残してくれた。伊東市の誰もが知っている立地のよい場所である。また町と海を見渡せる山の中腹に約七、八〇坪の墓地と納骨堂を持つている。これが信仰の継承と伝道に大いに用いられている。地域の人々に良き印象と思いを残していることも特筆すべきである。ことに戦前から戦後の約40年間を牧された松本廣牧師の印象はいまだに衰えない。戦後は何百人もの子どもがCSに集い、今でも「日曜学校の生徒だった」という町の人から当時のことや松本牧



左▶ 100 周年記念式典（2007 年 3 月 21 日）、右▶ 宇佐美教会との合同夏期学校（2009 年）



ミッション・スクールに通っていた方が多い。まさに何年後何十年後に芽を出すか分からない。この事実がCS教師や伝道委員を動かす大きな原動力になっている。あのペンテコステの新来会者も、ミッション・スクールの卒業生であった。彼女は次の週も笑顔で礼拝に出席された。今日は母を連れてきました」と。

先達の伝道スピリットを受け継ぎ、また与えられた信仰の遺産をよく用いて、「蒔かぬ種は生えぬ」を合い言葉に、地に根を張って伝道の働きを続けていきたい。

「同志社神学協議会 2010」

- 主 題 「会衆主義の伝統と希望」
- と き 2010 年 8 月 30 日（月）～ 31 日（火）
- と ころ 同志社大学今出川寒梅館および関西セミナーハウス
- 講 演 森 孝一さん（神戸女学院理事長・院長）
- 発 題 東北同信伝道会の歩みから
北海道の教会の自立と連帯

◎案内、申込書を必要とされる方は、下記実行委員会までご連絡ください。

◎参加申し込み〆切：7 月 31 日（土）必着

〒569-1022 大阪府高槻市日吉台 2 番町 3-16

日本キリスト教団 高槻日吉台教会 小笠原純 気付

「同志社神学協議会 2010」実行委員会

TEL：072-687-6614、FAX：050-1271-0481



島村ヨハネさん

その名もヨハネ



1933 年、群馬県生まれ。船橋教会員。

その名も「ヨハネ」。故島村亀鶴牧師の次男である。名前の由来を教会の中で問われたことはない。

今年のクリスマス前に大病を患い、初めてクリスマスを病院で過ごした。このことを一つの区切り時と考え、これまで担ってきた長老職、教会学校の校長の職から身を引く決断をする。放蕩息子だった、との自覚を強く持ちながら歩んできた信仰生活もいよいよ最終局面を迎え、ここからどう歩んでいくかを模索する日々である。

様々な事情によりお寺の幼稚園に入園。しかし、ヨハネの名は伊達ではない。私たちは仏の子、とみなが歌う中で、自分はイエスさまの子だからと、幼稚

多くの教会、伝道所には規模の大小はあるにせよ、いわゆる「教会図書」と呼ばれるものがある。そこには、子どもたちのための絵本からキリスト教の入門書、そして信仰の読み物や教会の記念誌が置かれている。いずれも教会員や求道者に自由に読んでもらえるよう願っていることである。しかしこの「教会図書」があまり活用されていないというのが私共の実態ではないだろうか。私共の教会でも購入したり献げられた書籍等を図書委員が地道に整理し、図書室の書棚に並べてくれる。その奉仕に

感謝している。しかしその労の割には図書が用いられないのが現実である。活字離れとか様々な理由が語られるが、せっかく伝道や学びのために準備されたものが用いられないのは残念なことである。昨年、試しに読みやすい書籍やトラクト等を教会玄関の一角に置いてみた。貸出ノートに記入する必要も無く、誰でも自由に持ち帰って読んでもらうコーナーであ

教会図書の活用

感謝している。しかしその労の割には図書が用いられないのが現実である。活字離れとか様々な理由が語られるが、せっかく伝道や学びのために準備されたものが用いられないのは残念なことである。昨年、試しに読みやすい書籍やトラクト等を教会玄関の一角に置いてみた。貸出ノートに記入する必要も無く、誰でも自由に持ち帰って読んでもらうコーナーであ

が、仕事を終え、真正面から教会に向き合う時を与えられた。そこで目にしたのは、あのヨハネ少年のような子どもたちの姿であった。その後、放蕩の時代を取り戻すかのように教会漬けの日々を送り、今新たな時を迎えている。

現代の教会が、不用意に放蕩息子を生み出すような教会とならないように強く願う一人である。そのためにまた新たに何かできることはないか、ただ主イエス・キリストをしっかりと見上げ、カタツムリのような歩みをなしたいと語った笑顔は、ヨハネの名を背負った人生を深く感謝する笑顔であった。

（教団副議長 佐々木美知夫）